利益の質による企業評価

- 利質分析の理論と基本的枠組み -

平成16年3月 一ノ宮 士郎

米国では、「利益の質 (Quality of Earnings)」という概念は企業評価で検討されるべき基本項目となっている。この利質は、元来 O'glove や Siegel に代表されるアナリストが、企業分析実務の中から発展させてきた分析概念であり、その歴史は古いものがある。また最近、Enron 事件以降の財務報告の信頼性回復に関連して、SEC、アメリカ会計学会、アメリカ公認会計士協会等における研究テーマとして利質が再び脚光を浴びているものである。ところが、米国に比べ、我が国では利質という概念が述べられる例は、非常に少ない。利質という分析概念は、不思議と我が国ではあまり利用されていないのである。

我が国における従来の伝統的な財務分析は、利益の金額という量的側面に基づいた比率分析を主体として論じられていることが多い。利質は、利益の質的側面に着目するものであり、この点利質は利益の分析に対し別の光を当てるものである。従って、定量的な利益分析に加えて、利質分析を追加することは、従来からの財務分析の幅を広げることにつながり、我が国における企業評価に寄与するところは大きいと考えられる。利質分析は企業評価の原点に回帰するための一つのツールとして、我が国でも目を向けるべきものであるとの見解もあり、利質がホットなテーマである米国とは、事情が異なるかもしれないが、企業評価の進むべき方向には大きな違いはないと考える。

このような問題意識に基づき、本稿は利質分析の先進国である米国における利質に関する様々な見解をできるだけ幅広く検討することにより、利質理論の現状を明かにし、さらに企業評価手法としての利質分析の基本的枠組みを示すことを試みたものである。